

これは…夢でございましょうか…？

頭がぼーっとしております…

確か私は新しいお仕事で…

男の方たちに…

—ああ…そうでした…

主さまが…
主様が私を助けに来てくれて…

今、私はようやく主様と—

クネ…





『あっ♡』
『あああっ♡♡』

『入ってきて
おりますっ♡♡』

『主さまの
私の膣内につっ♡』

『感じますっ、主さまの
太くてたくましいモノが』

『私の膣内を激しく
動いているのが…っ♡♡』

主様が私をこんな
激しく求めてくる—

—こんな
素晴らしいことが
あつていいので
しょうか？

もしこのまま
願いが叶うなら…

私は主さまとの
赤ちゃん…

—愛の結晶が欲しい—



赤ちゃん

「もうすぐっ!!」

「お腹の受精卵に
君の大好きなチンポミルク
ぶっかけてあげるからねえっ!!」

「ラシーワンヌツ!!」

「もうすぐだ!」

「ブムッブム」



「あっ♡」

「ああああっ♡」

「お出っぐだわっ♡」

主さまとの

「主様のっ♡」

「精子…っ♡」



「孕めえ…!!」

「孕めえっ!!」

「何度でも孕ませてやるぞ
コッコロたんツツ!!」

「うおおおおおおおっ!!」

「出る出る!」

「『出るううううう!!』」

「もう全身我らの

ザーメンで

ドロドロですな」

「はっはっは、見てくだされ

ワシチンポを上手そうに
しゃぶっているわい」

「おちんぼ…6…♡」

「主さまのおちんぼに
囲まれております…♡」

「葉の影響で我ら全員
以前の主とやらに
見えてますからね」

「あんな粗末な
ガキチンポより
ワシの特大チンポで
しっかり子宮の中まで
教育してやりますよ!!」

「直接受精マンコに
ぶち込みながらねえ!!」

おちんぼ

中にも…外にも…

全部…

主さまの…
子種…が…

ああ…

「おちんぼ…♡」

「おちんぼ…♡」

主さまの…おちんぼが
引き抜かれる

「中々抜けな…フシッ!!」

『ゴウッッッ』

ズ

ホ

「む…これは…
少しやりすぎて
しまいましたかな…?」

「問題ありません
この程度で壊れない
ように魔法を
かけてありますからね」

ニッ!

ゴ

ゴ

ゴ

『ハツハツハ
むしろ我々の子種を
求めて我慢できずに
飛び出してきたようにも
見えますよ』

「そう考えたら
また勃ってきましたよ…」

「ハツハツハ私ですよ」

「ではこのまま
2週目と参りましょうか」

『参りましょうか!
ガハハハッ!!』

沢山の…「主さま」の
声が聞こえる…

また、いっぱいアソコに
子種を入れてもらえる
のですね…

ああ…コッコロは……
幸せ…でござい…ます…

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ